

きよくのうまい
「旭農米をアジアへ」ASIAGAP(穀物)認証を取得
 北海道旭川農業高等学校農業科学科水稻班(旭川市)



《水稻班GAP担当》

【学校の概要】

- 学校長 廣瀬 之彦
- 生徒数 農業科学科・食品科学科・森林科学科・生活科学科の4科475名。(うち水稻班16名(3・2年生))
- 実習農場面積
田4ha、畑7.3ha、演習林241.7ha
- URL: <http://www.kyokuno.hokkaido-c.ed.jp/>

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 多様な時代変化の中で、農産物の安全確保・消費者の保護及び地球環境の保全等広い視点での知識、思考力、実践力を持った農業後継者育成・新規就農者の確保は、今後の継続可能な農業を行う上で重要な課題。
- ◆ 農業における適正農業規範を行う能力を身につけるため農業生産工程管理(GAP)の実践が必要。
- ◆ 人口減少が続く中、海外へ向けた農産物の販売を視野に入れる必要がある。このため「ASIAGAP Ver2.1穀物」の認証取得を目指した。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 校内研究として生徒がGAPを実践する。しかし、認証を取得するための知識が不足している。
⇒ 関係機関等から認証に係る情報収集や認証を受けている生産者を招き研修会を行った。
また、教員は、GAP研修会等に積極的に参加し適切な指導ができる体制を整えた。
- GAPの実践において記録は必須。
⇒ 記録簿をITで管理。営農管理支援システムを導入し、タブレットも活用しながら記録しやすい環境を整えた。
- GAPを継続していくための体制づくり。
⇒ 水稻班が継続を担う。1・2年生への継承は、3年生が項目別の引き継ぎ講習会を実施する。

【取組の成果】

- ASIAGAP Ver2.1穀物(品目:米)の認証を取得(2018年11月)
- 視点を変えて考える重要性和様々な作業中に潜むリスクについて学習することができた。

【活用した支援施策】

- 「農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業」のうち農畜産物の国際的に通用する認証取得の拡大事業(H28)
- 国際水準GAP教育推進プロジェクト研究(北海道)指定校の認定

【今後の展望】

- アジア圏へ輸出を視野に入れた安全・安心な旭川米のブランド確立を目指す。
- 学校農場全体にGAPと同様の工程管理を導入し、様々なリスクの低減を図る。
- 地域農業を支える人材の育成。



《公開審査・研究成果ポスター(抜粋)》